



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 4 月 6 日 (日)

発行 館長 加藤 智 一

桜の開花前線異変あり



2025 年、今年も東京で 3 月 24 日に桜（ソメイヨシノ）の開花が発表されるなど各地で開花が進み、桜前線も着実に北上しているようです。しかし去年は、宮崎など九州各所で桜の花が少なかったといえます。なぜなのでしょう。

一般的に桜は開花前年の夏ごろに花芽が作られ、それが秋から冬にかけて、成長しないようにいったん休眠します。その後、桜の花芽が再び成長するためには、3~10℃前後の低温による「休眠打破」が必要です。ところが、冬の気温が高いと「休眠打破」が充分に行われず成長が遅れるため、だらだらと咲くことになるのだそうです。実際、宮崎の昨年 1 月の平均気温は 9.3℃、2 月は 12.2℃と平年値の 7.8℃(1 月)、8.9℃(2 月)に比べて 1.5~3℃も高い状態でした。一方、今年平均気温を見ると、1 月 7.6℃、2 月 7.3℃と平年を下回りました。つまりこの冬は「休眠打破」が順調に行われたと推察されます。良かったですね。

しかし、気掛かりな現象がもう一つ。それは開花日が、年々早まる傾向にあることです。実際に東京の開花記録を見ると、3 月の平均気温が上昇するにつれて開花日が早まっているのは明らかで、1980 年代の 10 年平均は、3 月 30 日頃の開花だったのに対して 2020 年代は 3 月 19 日頃と、40 年で 10 日以上も早くなっています。2021 年の東京は 2020 年に続き 2 年連続で、過去最速である 3 月 14 日に開花が発表されました。また、2021 年は開花を観測している全国 48 地点のうち、その半数以上にあたる 28 地点で、開花日が観測史上最早(タイ記録を含む)となったのです。

この気温上昇と関係して、桜の咲き方にも異変が

あると言います。一般的に桜は、開花前線と呼ばれるように、九州・四国・東海・関東南部で早く開花し、その後、北へ開花が移っていきます。ところが近年は、広範囲で一斉に開花する傾向が見られるようになりました。これは 3 月の気温上昇で南東北・北関東・北陸などの桜の開花が早まる一方で、暖冬だと九州など温暖な地域では「休眠打破」が順調に行われず、成長が遅れる傾向があるためです。2020 年には、観測史上初めて福島のソメイヨシノが鹿児島よりも早く咲くという逆転現象が発生しました。南北の桜の開花日が近づいてきています。「休眠打破」がうまくいかないと、成長が遅れるだけでなく、今後は満開にならないところや、ひいては桜が開花しない地域も出てくる可能性があるとも聞きます。冒頭に述べたような表現、「桜前線も着実に北上……」は、近い将来使われなくなるのかもしれませんが。

先端細く、芯を太く……バットの話です

2025. 4. 5(土)朝日新聞より

大リーグで「トルピード（魚雷）」と呼ばれるバットが話題になっています。芯の部分が太く先端が細くなっている形状から、その名が付けました。

話題の発端になったのは、ヤンキースの選手が、ブルワーズとの開幕 3 連戦で、球団記録の 1 試合 9 本塁打を放つなど、計 15 本ものホームランを量産したこと。先発では、ゴールドシュミットら 5 選手が、この魚雷型バットを使用し、9 本がこのバットからうまれました。スポーツ専門局 ESPN によると、発明者は元物理学者で、ヤンキースのアナリストだったアーロン・リーンハート氏。ボールとコンタクトする芯の辺りを太くすることを思いつきました。ただ太くするだけでは重量が増し、スイングスピードが落ちてしまいます。そこで、先端も木材を減らし、「直径 2.61 インチ、長さ 42 インチを超えてはいけない」という大リーグ機構の基準もクリア。その結果、魚雷のような形になりました。

ちなみに、大谷翔平（ドジャース）と昨季ア・リーグ MVP のジャッジ（ヤンキース）は変えるつもりはないそうです。

